

経営比較分析表（平成29年度決算）

奈良県地方独立行政法人奈良県立病院機構 奈良県総合リハビリテーションセンター

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
地方独立行政法人	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 ※1	指定病院の状況 ※2
直営	10	-	-	-
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
-	7,968	非該当	15:1	

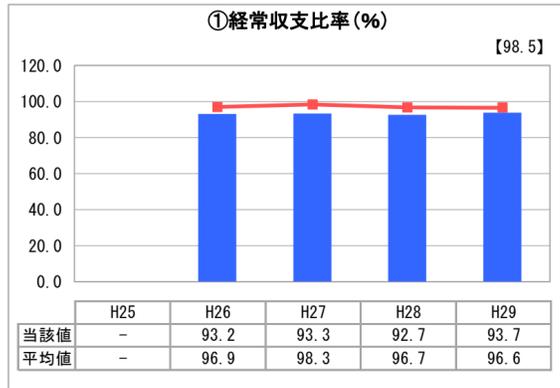
※1 ド…人間ドック 透…人工透析 I…ICU・CCU 未…NICU・未熟児室 訓…運動機能訓練室 ガ…ガン（放射線）診療

※2 救…救急告示病院 臨…臨床研修病院 が…がん診療連携拠点病院 感…感染症指定医療機関 へ…へき地医療拠点病院 災…災害拠点病院 地…地域医療支援病院 特…特定機能病院 輪…病院群輪番制病院

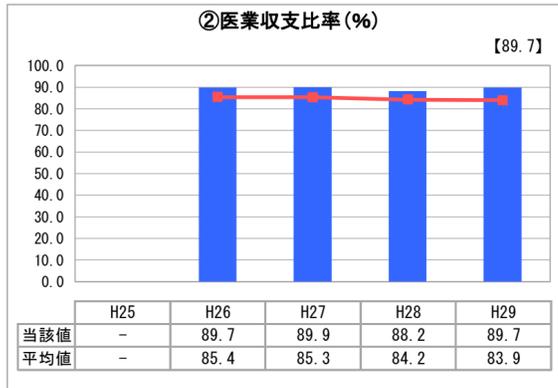
許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
100	-	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	100
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
100	-	100

グラフ凡例	
■	当該病院値（当該値）
—	類似病院平均値（平均値）
【】	平成29年度全国平均

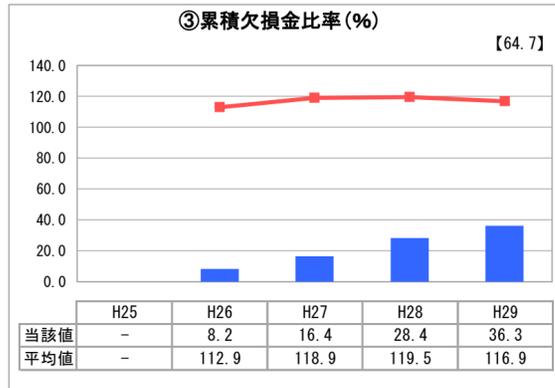
1. 経営の健全性・効率性



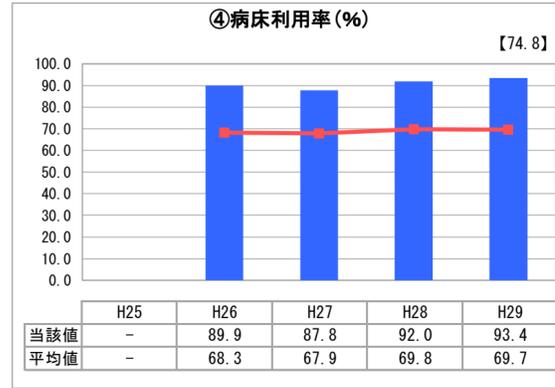
「経常損益」



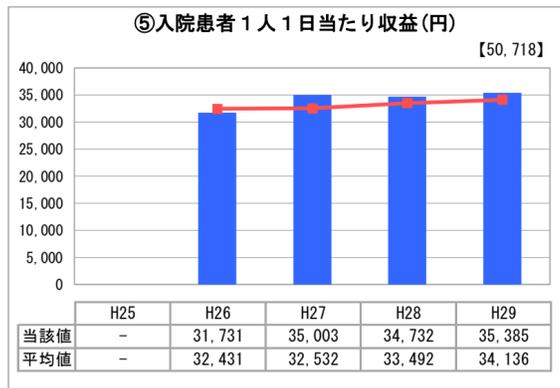
「医業損益」



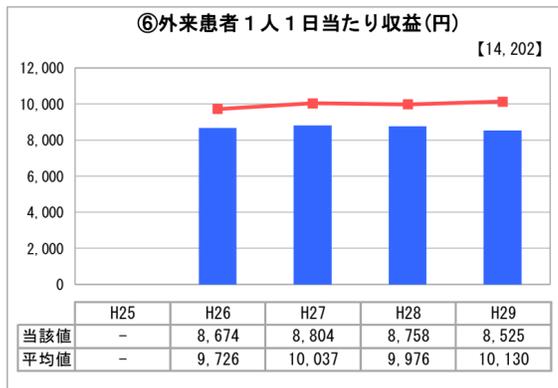
「累積欠損」



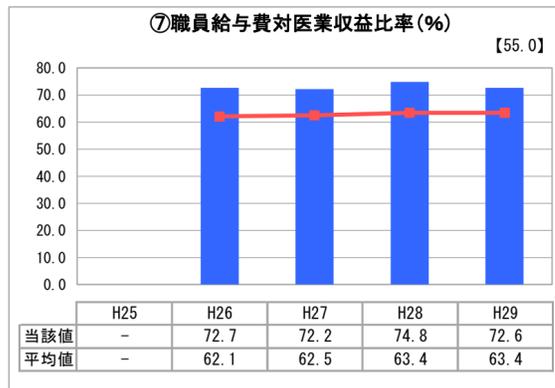
「施設の効率性」



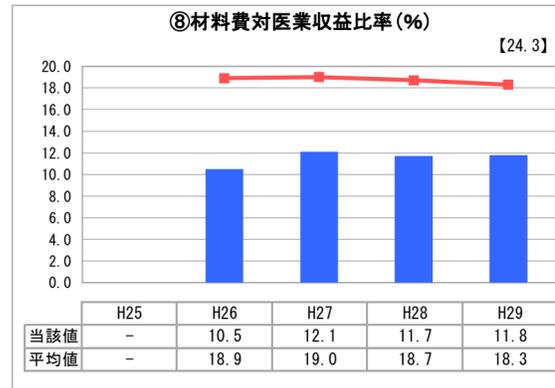
「収益の効率性①」



「収益の効率性②」

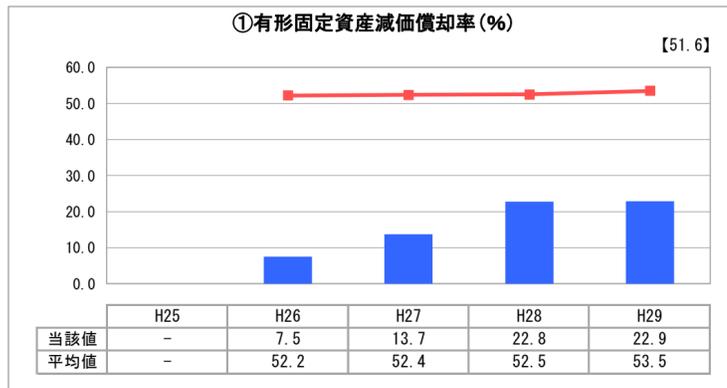


「費用の効率性①」

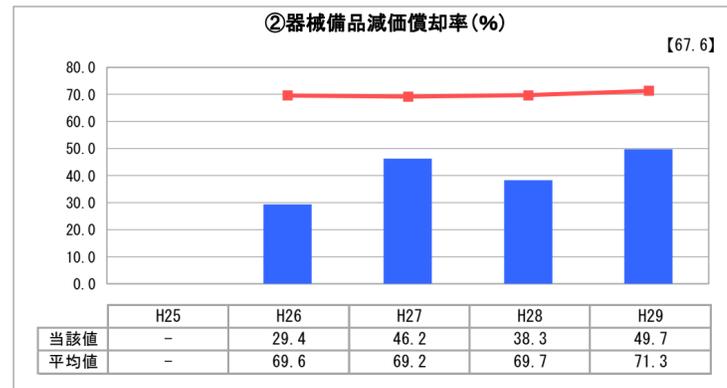


「費用の効率性②」

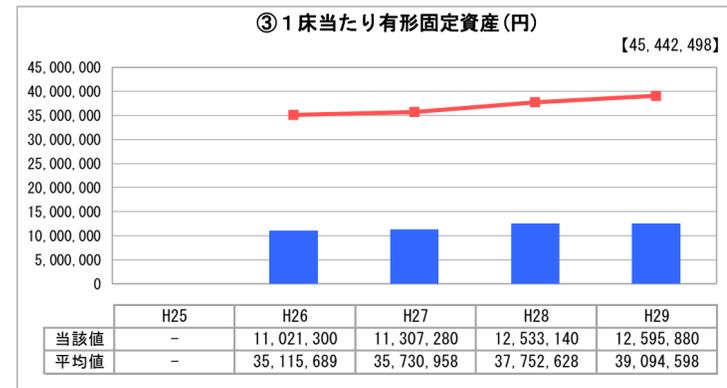
2. 老朽化の状況



「施設全体の減価償却の状況」



「器械備品の減価償却の状況」



「建設投資の状況」

I 地域において担っている役割

回復期リハビリ医療の基幹病院として、急性期病院での治療を終えた患者に対し、リハビリを中心とした治療を行っている。

奈良県障害者総合支援センター・更生相談所・特別支援教育部と連携しながら、障害者等の各種相談に応じると共に、社会参加と社会自立を促進するため、障害の早期発見、検査、治療・機能回復訓練等を一貫して行っている。

II 分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

病床利用率は類似病院平均値を上回っているが、外来はリハビリ訓練患者の割合が多く、外来患者1人1日当たり収益は類似病院平均値を下回っている。このことが全体の収益増に結びつかない一因となっており、経常収支比率・医業収支比率は、類似病院平均値と概ね同値である。

職員給与費対医業収益比率は、職員にセラピストが多いことや看護師等の年齢層が高いため給与費が高く、類似病院平均値を上回っている。

材料費対医業収益比率は、薬品・診療材料の使用量が少ないため、例年低い比率で推移している。

2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率及び器械備品減価償却率は、類似病院平均値より低い水準にある。比較的老朽化が進んでいないが、年々増加傾向にあるため、緊急性・必要性等を考慮の上、計画的な修繕・更新を行う必要がある。

全体総括

医業収支比率については、類似病院平均値を上回って推移しているが、外来患者1人1日当たり収益については、平均値よりも低い水準であるため、今後、さらなる診療体制の強化や他の医療機関との連携強化により増加を図る。

職員給与費対医業収益比率については、高い水準となっているため、今後も、給与体系や手当の見直し等を検討する必要がある。

※ 「類似病院平均値(平均値)」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。